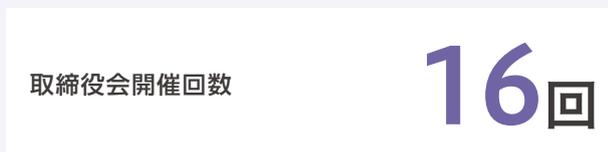


# ESG Data

## GOVERNANCE / ガバナンス



※各データはサンメッセ株式会社単体の2022年度(2022年4月1日~2023年3月31日)における累計数値を報告しています。

ENVIRONMENT / 環境

INPUT

用紙	25,706t	▲
インキ	364.3t	▲
PS版	112.3t	▼

PPC用紙	6.5t	▼
ストレッチングフィルム	23.6t	▼
PPバンド	9.8t	▲

購入電力	14,954.2千kWh	▼
都市ガス	543.4千m <sup>3</sup>	▲
A重油	7.9kl	▼
水道	8,447.0m <sup>3</sup>	▲
井戸水	847.2千m <sup>3</sup>	▼
ガソリン	144.4kl	▼

**営業・企画**  
環境関連製品販売促進  
環境品質についても最新の情報を積極的に提供しています。

**デザイン・製版**  
工程のデジタル化  
どんどん進化を遂げ、現像液を使用しない刷版も利用しています。

**印刷**  
VOCの削減  
多くの化学物質が使用される印刷の工程では、VOC削減が最大の課題です。

**製本・加工**  
包装材料のリサイクル化  
最終的に製品になる工程です。目に見えない環境品質には細心の注意を払っています。

**配送・納品**  
エコドライブの実施  
安全にそして正確にお客さまに製品を届け、さらにCO<sub>2</sub>を削減することが使命です。

**お客さま**  
環境品質の向上  
最終の廃棄まで考え環境品質の向上に努めています。

OUTPUT

汚泥(スラッジ)	14.8t	▼
廃油	44.3t	▼
廃酸	0t	↔
廃アルカリ	11.1t	▲
廃プラスチック	107.9t	▼
紙くず (難処理古紙) (カーボン)	160.9t	▲
木くず	75.4t	▼
繊維くず	14.5t	▼

用紙量	3,616.7t	▼
リサイクルの 廃プラスチック	7.8t	▲
使用済み刷版・ アルミ板	122.3t	▼

リサイクル率

99.2%

グリーン購入比率(文具類)

69.8%

カーボンオフセット件数

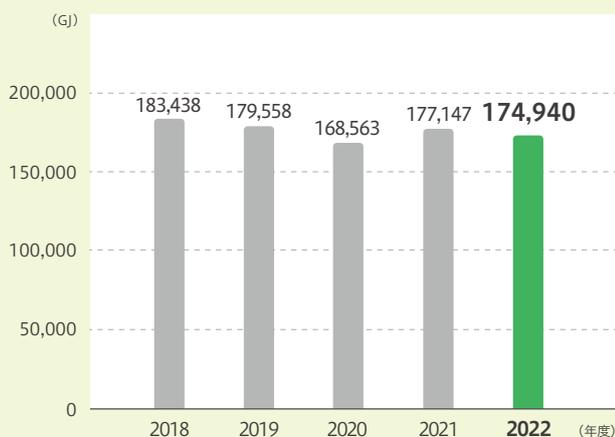
15件

### 温室効果ガス排出量 (Scope1+2)



※今回より調整後排出係数を用いた数値に変更しました。

### 総エネルギー投入量



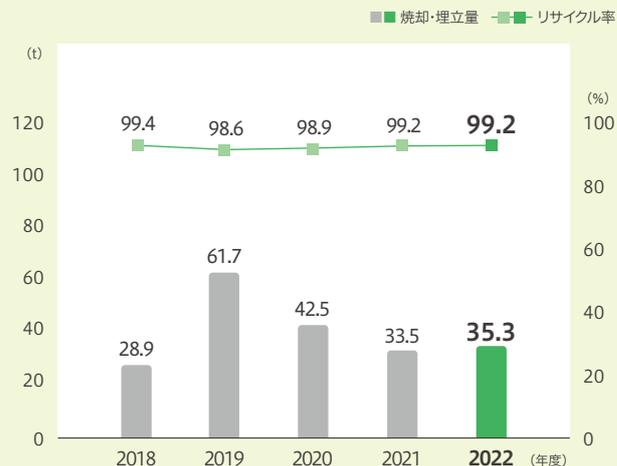
### 原油換算量 / 売上高原単位の推移



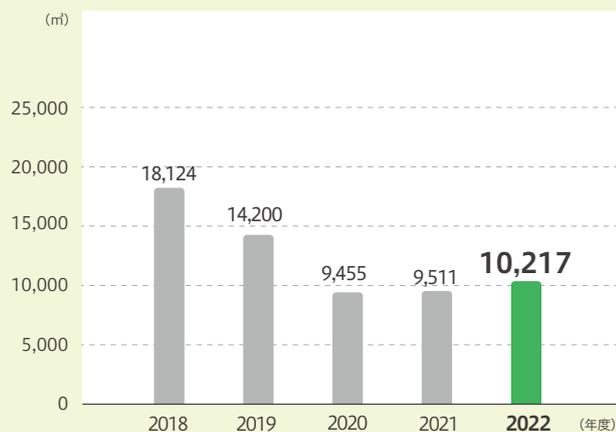
### 廃棄物等総排出量



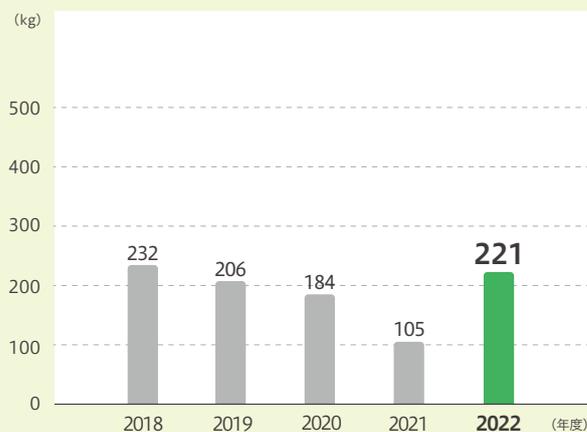
### 焼却処分・圧縮埋立量の推移とリサイクル率の推移



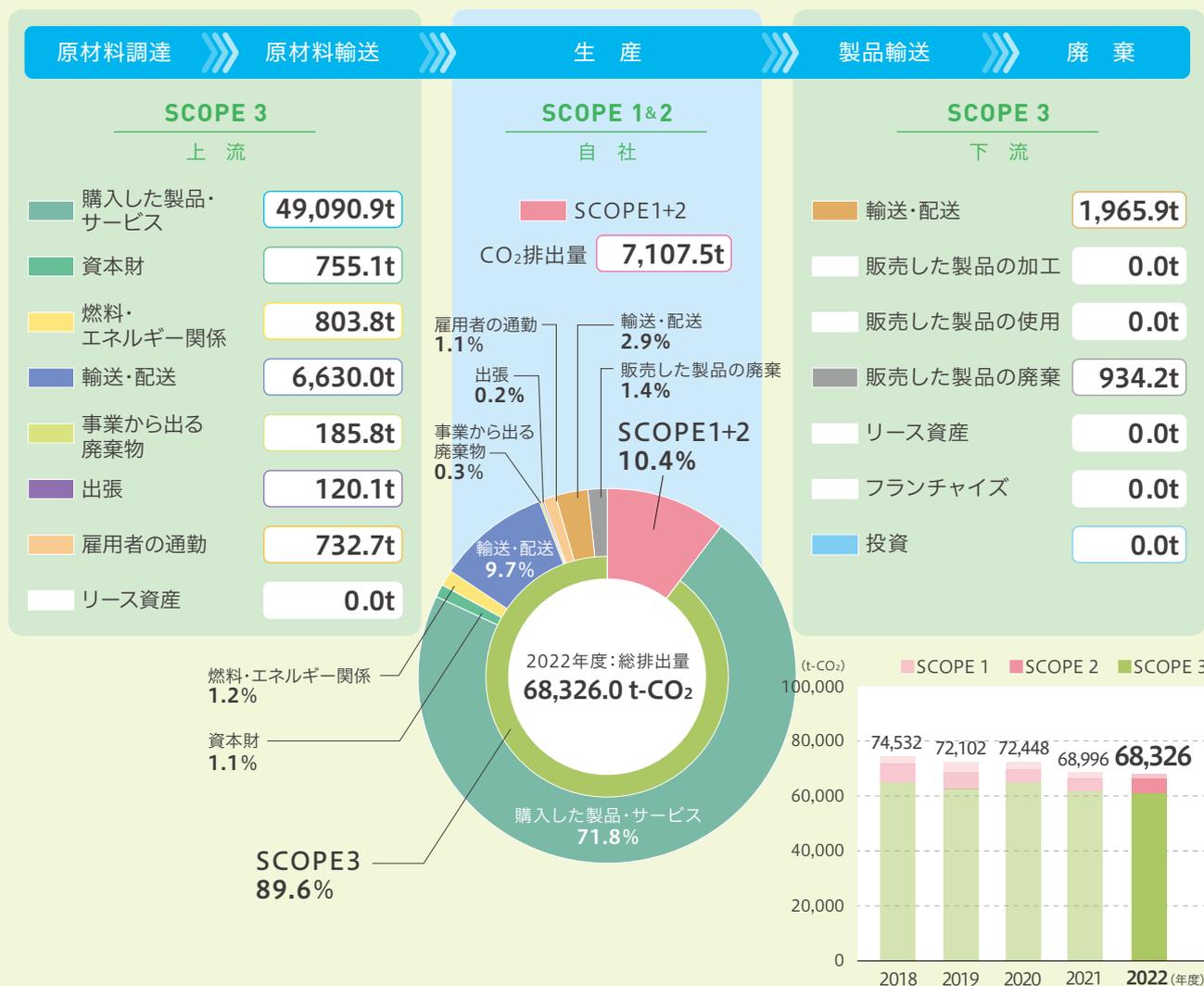
排水量



第1種指定化学物質排出量



SCOPE3 [サプライチェーン全体の温室効果ガス(GHG)削減]



2022年度環境活動概要



目標達成



改善が見られたが  
目標未達



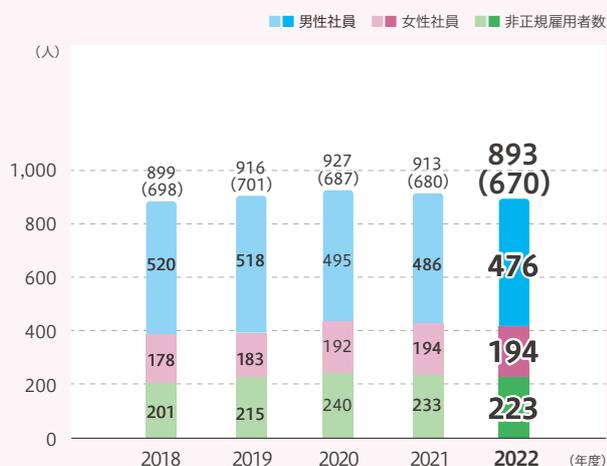
目標未達

	2022年度計画 および目標	2022年度実績	評価
省エネ、省資源、 リサイクル活動を 積極的に推進する	事故・刷り直し報告書のCO <sub>2</sub> を対前年度実績20%削減	営業本部は11,967.10kg、目標比42.5%、製造本部、購買部、IPS本部は、事故と刷り直しの合算で95,362.30kg、目標比99.5%でした。良い製品を作るための意識を高める教育や、定期的な適正2Sで快適な作業環境づくりなどで、事故や刷り直しの削減につなげています。	
	電気使用量原単位 対前年比1%削減	営業拠点、フォト課(スタジオ)、総務部(アメニティハウス養老)の累計実績は292,245kWh、目標比は88.4%でした。エアコンの運転時間や設定温度を、空調設備管理票(エアコン)の「入り」「切り」チェックで、体調を崩さない範囲で監視しました。本社工場、中工場、西工場の累計実績は、9,271kWh/千円、対前年比96.8%でした。ヒヤリハットを解決することで事故や刷り直しを削減し、最終的に電気使用量削減につなげています。	
	電気需要平準化原単位 対前年比1%削減	東京営業部、名古屋営業部、フォト課(スタジオ)、総務部(アメニティハウス養老)の累計実績の合計は195,127kWh、目標比87.9%でした。本社工場、中工場、西工場の累計実績の合計は10,429kWh/千円、対前年比98.0%でした。	
	都市ガス使用量原単位 対前年比1%削減	第1・第3工場で107m <sup>3</sup> /10万枚(対前年比97.0%)、第5工場で77m <sup>3</sup> /10万枚(対前年比104.7%)、本社工場全体で100m <sup>3</sup> /10万枚(対前年比99.6%)でした。ドライヤー紙面温度を印刷物の絵柄、紙質に応じて乾燥しているか確認し、設定温度を調整して適切な温度設定で作業しましたが、引き続き燃焼温度の低温化に取り組む必要があります。	
	焼却・埋め立てごみの削減(リサイクル率99%以上)	リサイクル率は99.2%でしたが、当社のゼロエミッションの定義である「99%以上リサイクル」は維持しています。リサイクル率に影響する埋め立て処分の管理型混合廃棄物は約26tで総廃棄物量に対して約0.6%を占めており、今後は、使用済み不織布、プランケット、硬質プラスチック、種類が混在した廃棄物、また、印刷機械で使用したインクカートリッジの空容器などを、リサイクル可能な業者に検討し変更していく必要があります。	
	蛍光灯からLEDへの更新 …西工場全部	西工場と岐阜支店の蛍光灯をLED照明にする計画でしたが、西工場、名古屋支店、岐阜支店、愛岐営業所、タナカハイツ、第1工場5階北側を完了しました。	
有害物質の削減	化学物質のリスクアセスメントの維持管理	17件(6部署)のリスクアセスメントを実施しました。リスク低減措置として、全体換気、保護手袋と保護眼鏡の着用を依頼しました。リスクアセスメント結果を使い、製品に含まれる化学物質が身体に与える影響について、現場責任者より作業員へ繰り返し指導しました。	
	PRTR物質を含む製品追加(ゼロ)件の維持	PRTR物質の追加はありませんでした。新規登録時には、購入業者との打ち合わせ段階や取得後のSDSの情報からPRTR物質の含有確認を行います。	
法と秩序を守り、 汚染防止に努める	苦情を含む利害関係者からのニーズと期待を把握する(ポジティブな良い情報を含む)	第5工場で異臭がする苦情がありました。屋上で臭気官能検査を実施し、第5工場輪転機1台のドライヤー触媒が経年劣化していることが判明したため、運転をストップし触媒を交換しました。臭気濃度測定、触媒交換など保全計画の遅れが原因で、今後、触媒の交換時期や臭気濃度測定の時期や目安をスケジュール化して管理することとしました。	
	環境設備からの漏洩0(ゼロ)件	環境設備からの漏洩はありませんでした。省エネパトロールや該当部署で緊急事態対応訓練を繰り返し行い、事故の未然防止や万が一の場合に備えています。	
	業務用エアコン、チャラーの簡易点検、定期点検結果による予防保全の実施	本社工場、中工場、西工場、営業拠点でエアコン、チャラーの簡易点検を3カ月に1回、また、チャラーは業者による年1回の定期点検を実施しました。本社工場で簡易点検表への追記遅れがあり、簡易点検を実施しなかったことになってしまったため、簡易点検表の見直しを行いました。	
自社独自の環境 保全活動の推進	文具類のグリーン購入80%以上	総購入金額961,963円に対してグリーン購入金額671,007円、年間目標80%に対して69.8%でした。前年度数値が悪かった部署は、環境目標実施管理表で購入意識を高めたため、改善が見られました。制服・作業服、作業手袋、自動車(4台)は100%グリーン購入でした。	
	再生可能エネルギー使用の推進	顧客への提案17件の目標に対して17件の提案を行いました。部署別環境目標実施管理表を作成し各営業部で目標を設定して取り組んだほか、各営業部で独自に再生エネルギーやグリーン電力の基礎教育やセールスポイントについて教育を行いました。	
	カーボンオフセット前年度受注件数+2件	営業部全体で21件の目標に対して15件、50t(昨年度13件、60t)でした。今後もカーボンオフセットの具体的なセールスポイントやメリットを学び、新規顧客に限らず既存顧客にも積極的に提案していくことが必要です。	
	FSC®森林認証紙新規クライアントの獲得前年度受注先実績+2社	目標135社に対して128社でした。FSC受注件数は1,650件(昨年度1,211件)、購入量も2,274t(昨年度1,780t)と大幅に増加しました。 FSC®受注件数と購入量 2017年度 392件 819(t) 2020年度 691件 956(t) 2018年度 392件 914(t) 2021年度 1,211件 1,780(t) 2019年度 659件 844(t) 2022年度 1,650件 2,274(t)	
環境マネジメントシステムの推進	更新審査で不適合(カテゴリーB)0(ゼロ)件 QMSとの複合審査で、カテゴリーB以上の指摘はありませんでした。環境としてはカテゴリーC 6件の指摘を受け、是正処置依頼票で対応しました。滋賀営業所単独の変更審査でもカテゴリーB以上の指摘はなく、認証範囲に営業拠点として初めて滋賀営業所が加わりました。		
職場教育の完全実施	教育計画の実施率80%以上 全社の教育訓練実施率は85.7%でした。EMS教育実施方針で年間の目標回数、教育内容を明確にし、各部署で教育訓練計画管理表に反映して取り組みました。総務部人事課で月次チェックを行い、教育・訓練実施報告書が未提出部署は、担当課長にメールなどで督促しました。		
地域社会との共生	清掃活動、ボランティア活動、工場見学を通じて地域住民とのコミュニケーションの充実 計画していた行事やイベントはできませんでしたが、ガラスびんを回収して地域内循環をさせ、廃棄物やCO <sub>2</sub> を削減するプロジェクト「BinLoop(ビンループ)」に、大垣市の企業と協働しています。		

# ESG Data

## SOCIAL / 社会

### 社員数の推移



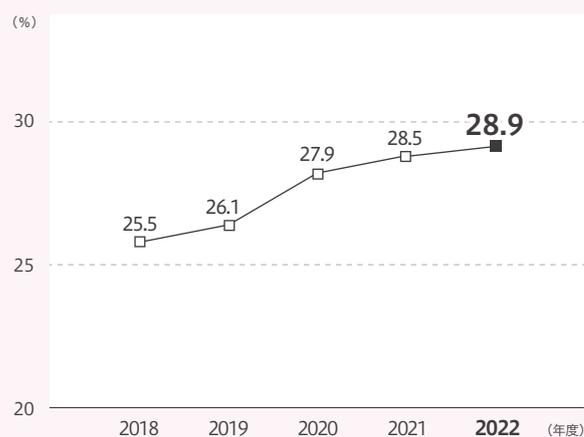
### 障がい者雇用の推移



### 有給休暇取得の推移



### 社員に占める女性の割合 (正社員)



社会貢献支出総額 (広告協賛費+寄付金)

**25,897,208 円**

資格・技能検定取得  
奨励手当支給者数

**235 名**

平均年齢 (正社員)

**42.5 歳**

平均勤続年数 (正社員)

**20.8 年**

教育研修実施回数

**49 回**  
(2022年度 教育計画より)

<b>4.7.2 コンプライアンス及び倫理</b>	
苦情の件数及び種類	苦情件数 14件
懲戒処分の件数及び種類	懲戒処分件数 4件
<b>4.7.3 コスト</b>	
全ての労働コスト	8,436,664千円
外部の労働力にかかるコスト	3,818,410千円
平均給与及び報酬の割合	年額報酬平均5,396千円 (男性 5,998千円、女性 3,909千円)
総雇用コスト	4,990,022千円
従業員一人当たりのコスト	5,020千円
採用コスト	1,300千円
<b>4.7.4 多様性(ダイバーシティ)</b>	
a)年齢	正社員の人数(2023.4.1現在) 0-14(歳):0名 30-50(歳):364名 15-30(歳):119名 50超(歳):207名
b)性別	正社員の人数(2023.4.1現在) 男性:487名 女性:203名
c)障がい	障がい者雇用率(2023.6現在) 2.16%
<b>4.7.6 組織文化</b>	
エンゲージメント/従業員満足度/コミットメント	従業員満足度調査(2023.12-2024.1実施)
<b>4.7.7 組織の健全性、安全性及びウェルビーイング</b>	
労働災害の件数	労働災害の状況 労働災害の件数:8件 災害率(度数率):0.54 強度率:0.0027
工作中的の死亡者数	業務中死亡者数 0名
<b>4.7.8 生産性</b>	
EBIT/収益/売上高/従業員当たり利益	124.0千円
人的資本RoI	0.029
<b>4.7.9 採用、異動及び離職</b>	
離職率	新卒3年後離職率(2020年4月入社分) 18.75%
希望退職率(定年退職を除く)	希望退職率 2.8%
退職/離職の理由/理由ごとの退職・離職者	希望退職者数 20人※定年後再雇用者を除く
<b>4.7.12 労働力の利用可能性</b>	
従業員数	総従業員数(2023.3現在) 1,008名 ※役員、正社員、嘱託、パート、アルバイト含む
フルタイム換算人数	フルタイム換算人数従業員数(2023.3現在) 939名
臨時的な労働力	パートタイム人員数(2023.3現在) 160名